

マラリアの幻覚

神田 優 NPO 法人 黒潮実感センター長理事

1966年高知市長浜生まれ。子どもの頃からの海好き、釣り好き魚好き。高知大学農学部時代は釣りと高知県・沖縄県座間味島でのダイビングガイドで生計を立てた。総潜水時間7000時間以上。大学院博士課程で東京大学海洋研究所に在籍し、平成8年に学位農学博士取得。専門は魚類生態学。平成10年から柏島に移り住み、大学の非常勤講師を続けながら、黒潮実感センターの設立にむけて奔走した。



黒潮実感センターを立ち上げる1年前の1997年、私はアフリカ中東部に位置するタンガニーカ湖に生息する魚類シクリッド（カワズメ科）の研究のためザンビアに渡った。この地域にはコレラや腸チフス、赤痢、黄熱病、マラリアや住血吸虫など恐ろしいものがたくさんある。出発1、2カ月前から様々な予防接種を打っていた。

マラリアは感染率が高く特に気をつけなければならない病気だ。湖のそばで蚊帳をシングルベッドに敷き込むように張って寝るのだが、狭い蚊帳に身体が触れていると蚊帳越しに刺されることもある。マラリアの予防薬を飲み続けることで発症を防ぐのだが、疲れて抵抗力が下がると発症する。2カ月の調査期間の残りが10日余りになり、休み返上で無理をして調査に没頭した。

そんなとき調査地の近くで新船の進水式があった。雨季でけっこう波があり、粗雑な作りの新船は沈んでしまった。潜って調査中だったため、俺にまかせるとそのボートまで泳ぎ、ロープをかけて岸近くまで引っ張り、地元の人たちと引き上げた。かなり疲れたが、歓声を上げ「Mr. KANDA Yeah! Yeah」と私を取り囲み、踊って喜んでくれた。

意気揚々と引き上げた2日後、ちょっと頭痛はしたが潜って調査をしている

と、急にガクガクと全身に寒気がして、頭がガンガン割れそうに痛みだした。クラクラしだして体温を測ると何と40度！ 20年以上熱など出たことがなかった自分の体温とは思えない。マラリアが発症した瞬間だった。

金槌でガンガン叩かれるような頭痛が続き、熱で身体中の節々や筋肉が痛み、下痢を伴うためトイレとの往復。気温は35℃なのに、毛布をかぶっても寒気が止まらない。目をつむってもずっと悪夢や幻覚に襲われる。幻覚は原色の赤、青、黄、緑、白でウルトラセブンのオープニングの文字がぐるぐる回っているような感じだった。

薬で熱は下がらないし、何より頭痛で気が狂いそうだった。ベッドの中で何度も手を合わせ神様やご先祖様を拜んでいた。数時間おきに体温を測り、「3日熱マラリア」であることがわかった。

発症から1週間、帰国のためタンガニーカ湖の調査地を離れなければならない日の朝、やっと熱が治まり頭痛も引いた。調査地から空港のある首都ルサカまでの距離は1,300km。1泊2日の行程で車の後部座席で横になり、ガタガタ道を揺すられながらの長旅。そんな地獄の苦しみさえも今となっては懐かしいだけのいい思い出である。